

トウキョウダバダ

ONEDAY EXHIBITION & SUPPER
5, MAY, 2011 3:00PM~

DADA
BA
VOL.5

美術という形式がいまなお現代において意味を持ち得るのならば、それは媒体としての美術の

有益性にあると言えます。「デュシャンの《泉》」によって、アーティストの思考と概念があらゆる

ものを美術化することが可能であると提示されたとき、それは美術の膨大な歴史と事実におい

てどのように意味を獲得し、美しさを創出したかにあります。

ダバダでは、美しさを提示する場の創出とともに、美術(市場)のための美術ではなく、生活空間

へと展開することにより生活における意見を促し、生きた／活きた美術を目指します。

dabadaは 場所を特定してゆきます。
DABAは 美しく無いものです。
ダバダは ダバダであり、ダダ+場です。

各各位

お世話になっております。

このたび群馬県を拠点に活動しておりますアーティスト 川松康徳は下記の要項で1日だけの展覧会「TOKYOdabada vol.5」を企画・開催する運びとなりました。

「TOKYOdabada vol.5」では、杉並区の古い3階建て鉄筋アパートの3階2部屋とペランダを使い、パフォーマンスだけの展覧会を行います。

同時多発的に行われるパフォーマンスは場の創出とともに、場との関係、場の書き換えによって、知覚の意味である状況を有化し続け、状況によって鑑賞者の存在そのものを問かけるものへと変貌します。

村田 峰紀 //////////////////////////////////////
1979年群馬県生まれ、東京都在住。多摩美術大学卒業。自らの身体を酷使し、言語化することができない身体感覚を鑑賞者に示すことで強いインパクトを与えるゲリラ的なパフォーマンスや、その結果として産み出されるインスタレーションを発表している。

松淵 得雅 //////////////////////////////////////
1981年秋田県生まれ。2007年イギリスのエジンバラ芸術大学大学院ASNコース修了。2005年~09年のイギリス滞在中に主にヨーロッパにて活動。2009年帰国後、東京と秋田をベースに日本国内での活動を始動。作品はメディアにとらわれず多岐にわたるが、その表現は社会や慣習に潜む物事の境界を多角的にあぶり出し、構築と破壊が同時に進行する。近年は梱包用テープを使ったインスタレーション、パフォーマンス作品シリーズを国内各地で展開している。2011年は3331 Arts Chiyodaにて「Cross the border (kitchen think drama)」を発表。8月には秋田県大館市のゼロダテ／大館展2011に出品予定。

会期 2011年5月5日(木) 午後3:00~

会場 〒166-0014 東京都杉並区松ノ木2-28-2 3F

企画・構成 出品作家

川松康徳 村田 峰紀 JPN MINEKI MURATA
松淵 得雅 JPN TOKUMASA MATSUBUCHI
COORDINATER 山本 信幸 JPN NOBUYUKI YAMAMOTO
岩井 尚子 川松 康徳 JPN YASUNORI KAWAMATSU

問合せ contact@kawamatsuyasunori.com

※ 入場無料です。
※ 事前の予約の必要はありませんが、当日の状況によっては軽食をお出し出来ない場合がございます。あらかじめご了承下さい。
※ 御不明な点はメールにてご連絡下さい。